

MAX STUDY GROUP

Vol. 6 2016年4月30日

第6回 レポート

A テーマ設定

今回は飛び入りでテーマを設定しました。宮城県の古川学園という私立中高から、中2の生徒対象にグローバルキャリアの研修の依頼が私にあったのですが、その研修のデザインを勉強会の中で議論し、グローバルキャリアとは何かということディスカッションしました。

B コンテンツ

1 アイスブレイキング

今回のアイスブレイキングは米倉先生が担当をしました。自己紹介マトリックスというものです。



まずは全員にA4の紙が1枚配られました。その紙の真ん中に自分の名前を書きます(ニックネームでもなんでも、今の自分を表現する呼び名で構いません)。そして、その名前を中心にどんどん自分に関連するキーワードを書き連ねていきます。中心から外に向かって伸びていくマインドマップですね。



例えば、私だったら、MAX という名前が中心にあって、そこから「グローバル」「英語」「阪神」「家族」などなど、といった感じです。これを3分間行います。最後の方はキーワードが出てこなくなるのですが、そこも頑張って絞り出します。そして、その後、グループでそのマインドマップを使って、自分自身の紹介をしつつ、相手のことを聞き出しつつ、共通点を探していくといったものです。

この活動は米倉先生、渡辺先生が今年担任するクラスでも年度初めにエンカウンターとして行ったそうです。生徒に単に自己紹介や挨拶をさせようとしても、1人1人が数十秒恥ずかしそうに話して、クラスを一巡しておわるだけですが、このマインドマップを使って話し合いをさせると、あらかじめ話す内容を整理できるということと、やはり共通するキーワードを見つけるというタスクがあるので、話が広がりやすいということです。また更なる手順として、共通キーワードをハイライトし、相反するキーワードを別の色でハ

イライトするなどして、より視覚化させて、ディスカッションを行うという活動も説明されていました。

渡辺先生の場合は、他にも修学旅行の事前研修でも行ったようで、単に奈良・京都という言葉でも、キーワードを広げさせていくと、名所の名前だけにとどまらず、色彩や情景や雰囲気、温かみを表す言葉など、五感に起因するキーワードも出てきたようで、面白かったということです。さらには、保護者会でも「今後の学び」を示す狙いもあって、この取り組みを行ったようですが、好評だったということでした。

個人的な感想ですが、このアクティビティはこのようなブレインストーミングだけでなく、(むしろ)まとめの活動として効果的だと思います。研修のまとめや感想は、どうしても文で書くことが多いですが、文だといろいろなことがぱっぱと書けませんし、学んだこと、感じたことのつながりが線でつながらないことがあります。しかし、この活動を使えば、思いつくままにキーワードを書いていけばいいし、つながりが線でできますので、振り返り活動などには有効なのではないでしょうか。しかも、短時間でできるし、他人と比較することも容易にできます。事前と事後にやって、キーワードを比較し、何を学んだのかという変化を見ることもできます(文字にして、初めて「変化」が意識できるということもありますね)。

渡辺先生の保護者会の取り組みを聞いて思ったのは、保護者会で「子供」の名前をテーマにしてやらせてみる。そして、「実は、先に生徒に同じものをやらせてあるんです」と言って、生徒の書いたものを渡してみれば面白いかな、と思いました。娘自身が感じているその子自身と親が感じているその子、その比較は親にとっても新鮮ではないでしょうか。そして、2回目の保護者会では、親をテーマにやってみてもいいかもしれません。ぜひ、今度機会があったら取り組んでみてください。

2 アクティビティ: グローバルキャリアセミナーのデザイン

冒頭のテーマ設定にある通り、今回は飛び込みで「中2・グローバルキャリアセミナー」の企画作りです。

4月某日、宮城県・古川学園の蛸名先生からお電話をいただきました。2014年に私が仙台で行ったグローバル教育の講演で知り合ったのですが、宮城から私の授業見学にも来ていただくなど、その後も時々連絡を取っておりました。その縁で、今回の依頼をいただいたのですが、「中1からキャリア教育を行ってきたが、その中でグローバルという視点を入れたい。生徒にグローバルという意識を持たせ、視野を広げさせたい」ということでした。

そこで、これまで勉強会の運営企画をしてきた渡辺先生、米倉先生に連絡をし、研修の協力をお願いしました(グローバルキャリアと言えば犬飼先生というスペシャリストもいますが、ご都合によりセミナー当日だけの参加になりました)。

ということで、今回のミッションは・・・

このグローバルキャリア研修をこの勉強会で一緒に企画しましょう。
みなさんだったらどのような研修を組みますか。

私自身、この時、本当に何の企画もしていませんでした。ここからあと 1 か月後とはいえ、留学フェア、ヨーロッパ出張、中間テストなどなど、色々と抱えているものがあつたので、「どうしよう」という焦りも若干ありました。なので、今回の勉強会で皆さんにも知恵をかしてもらい、参考にしようという意図もありました。

まず、この研修の狙いと課題です。

- ① グローバルというコンテキストを大切にする(私が依頼を受けた意味はそこにあるので)
- ② 宮城県から来た中 2 の生徒にどうやって「グローバル」を関連付けるのか。中 2 でもわかる「グローバル」をどう展開するのか。(東京の生徒よりもグローバルとの接触や経験は少なく、意識も持っていないと思うので)
- ③ 研修を昼間にもやって、その夕食後の 2 時間。どうやって能動的に、積極的にセミナーに参加させるか。極論、眠くならないプログラムをどう作るのか。

【セミナーのシチュエーション】

- ・ 中 1 からキャリア研修を行っており、これまでセミナーも 5 回行っている。ベネッセや企業の方の講演もあり、そのスライド資料は事前にすべていただいている。
(これまでの内容は、キャリアとは何か、職業観、キャリア選択の意識付けという内容が主)
- ・ そのキャリア学習の一環として東京研修のプログラムが組まれている。
(3 日間の中で国立科学館での研修、企業・省庁の訪問などが行われているが、この勉強会時は、それらの昼間のプログラム内容は当方では把握していない状況)
- ・ 2 泊 3 日の研修の 2 日目の夜に 1 時間半～2 時間の研修を行う。
(食事、シャワーの後、19 時から 21 時まで)
- ・ 対象は中 2 で、75 名ほど。共学。
- ・ 会場は研修ルーム。机、いす、プロジェクターなどがある。



議論は 2～3 人のチームで行いました。コンセプトなしに「これいいかも」と思ったものを寄せ集めてしまうと、結果的にストーリーのない 2 時間になってしまうので、最初に「セミナーのコンセプトと狙い」を設定し、それに沿って 2 時間のプログラムを作るというステップは共通でお願いしました。

どのチームもコンセプトと狙いの設定から議論が(良い意味で)難航していました。進捗状況を聞くと、「狙いすらまとまらない」という声もあったぐらい、意見がぶつかったようです。でも、そのぐらい、食後の2時間の中2にグローバルを教えるというのは難しいものです。

私と渡辺先生も別場所に移動して、2人で議論を重ねましたが、そこでも初っ端からいろいろぶつかりましたね。その議論の要約はセミナーのレポートに掲載したいと思います。

全体の議論も混沌としてきたので、途中で一度ディスカッションを止めて、全体で狙いと課題の共有を再度行いました。



まず、「2時間のセミナーの中で、生徒たちにどんなメッセージを伝えたいのか」ということを各チームに発表してもらいました。「異文化で課題解決を進めていく力を身に付けよう」「グローバル人材を目指そう」など、そんなメッセージが出されました。私の設定したメッセージは「グローバルを『自分ごと』としてとらえよう」というものです。つまり、グローバルというものが「自分に関係あることなんだ」と生徒に関連付け、少しでも意識やモチベーションが高めたい、ということです。

次に、単なる異文化の学習にとどめず、「グローバルな意識、グローバルな視野」につながるように設定しようということが議題に上がりました。さらに、あくまでも「キャリア研修」なので、「未来」とつなげてあげることが大切です。その際に、「どういう未来が待っているのか」というイメージを取らせ、それをもとに今の自分を見つめ直す、というアプローチをとりたいて思っていました。感覚的に言えば、顔をふと上げると目線の先に未来の映像がダイジェストで流れて、「グローバルって私たちのことなんだ」と気づかされる。そして、そこから「では、どうすればよいだろうか」という問いを考えていく、といった感じです。

合わせて、インプットと活動のバランスが課題となりました。ゲームや活動、プロジェクトだけで終わる2時間であっても良くないので、どこかでインプット型のレクチャーも必要になります。その時に、どこでインプットを行うのか、どのぐらい行うのか、何をインプットするのか、といったことが問題になります。理想的には、活動の中にも「考え、理解する」という要素が必要だし、インプットの中にも「活動する」といった要素を組み入れられたらいいですね。



さて、これらの共有の後、議論が再開され、約30分後に各チームからの発表となりました。ここでは、各チームのアイデアおよび最後に行った私からのフィードバックをかいつまんで掲載します。

【A チーム】

- ・ 自分の好きなマンガ、ゲームを世界に紹介しよう: 紹介する人と買う人に分かれてロールプレイ
- ・ その後、3C を分析する <市場(顧客: Customer)、競合(Competitor)、自社(Company)>
- ・ 自分の好きなものを紹介してお金を得るということがグローバルであり、キャリアである

【B チーム】

- ・ グローバルという観点から見て、宮城県はどのような状況下を考える。
- ・ お金を投資してもらえるような仮想企業を作り、提案をする。
- ・ その後、日本の未来予測を行い、仮想企業としてその課題を乗り越えるためには何が必要なのかを考える。
- ・ 最後は個人に焦点を当て、自分たちは将来どのようなスキルや力が必要なのかを考える。

【C チーム】

- ・ 「日本が75人の村だったら」、経済や年齢など、体感をさせる。
- ・ 「30年後の日本が75人の村だったら」を行い、日本の未来を体感させる。
- ・ 世界でも同様に「75人の村だったら」を現在と30年後に分けて行う。

【D チーム】

- ・ 宮城の自分の企業が他国に買収されたらどうか
- ・ 賛成派、反対派に分けてディベートをさせる。
- ・ グローバル企業のいい面、悪い面を議論する。
- ・ 将来グローバル社会の中でどう向き合うかを考える。

【E チーム】

- ・ 即興劇「日本人と外国人」 その中で文化的に失礼な言動がいくつあったか当てる。
- ・ 「違いに気づくこと」をポイントとして置く。
- ・ 「宮城」、「グローバル」をテーマとしたマインドマップを作成し、比較対照させる。

【MAX からのフィードバック】

- ・ プロジェクトを設定して、「提案せよ」など最後にプロダクトを求めると面白いかもしれない。
- ・ 「宮城から世界へ」というコンセプトは、グローバルを有機的に関連付けるうえでも、生徒オリジナリティを引き出すうえでも効果的だろう。
- ・ 「75人の村だったら」は世界の状況を体感するには良いプログラムだが、あくまでもそれは導入的な活動であり、そのあとどのようにつなげていくかが大切だろう。
- ・ 外資系に買収されるなどの設定は面白いが、ネガティブな未来像を押し付けることになりかねず、中2相手の設定としては適さないのではないか。今後の日本に危機感を持たせることは良いが、夢のあるグローバルを語りたい。
- ・ 即興劇など、異文化理解をテーマにするのは面白い、生徒にも分かりやすいが、「この文化は・・・」と

いったような安易なステレオタイプは避けたい。

- ・ マインドマップで、「宮城」「グローバル」をテーマにして比較対照する活動では、2グループに分けてお互いが何をテーマにしているかは隠したまま行い、そのあと「宮城」「グローバル」の共通点、相違点を比較させるのも面白いのではないか。
- ・ 「どこでもドア」はボーダレスの象徴であり、中高生とグローバル化をつなげるためには有効であろう。

土田 班

3D分析

↓

車庫の紹介 (元のもの) / 逆も (持ち帰るもの)

↓

自分の好きなコト、ゲームと世界を紹介して (ゲームソフト)

↓

3D分析と紹介

↓

自分の好きなものを紹介して お金を得るの

↓

これからグローバル化のフェーズ

小川 班

日本の将来予測は不安定 (紹介)

↓

投資

現状分析、宮城と地方でかかっている状況を考えよう

↓

お金と投資してどうなる company と考えよう

↓

将来予測を指標 input

↓

3D分析の自分自身

↓

個人はどのようなスキルが必要か考えよう

大塚・葉巻 班 「30年後の世界を予測」

75人 日本か75人 日本か75人 日本か75人 (質問 年約局)

↓

30年後は? どのような世界になるのか

↓

世界を75人の世界で

↓

30年後は?

↓

今と30年後は変わったのか?

幸吉 班 「グローバルとどうなるか」

「他国に異化されるのか」

↓

賛成 (朝倉) / 反対 (石井)

↓

宮城の歴史 / 歴史 / 観光 / PR

↓

鋭意 sharp etc input

↓

正面 / 背面

↓

グローバル化の社会の中でどうなるか

渡辺

即興劇

日本人の上司と外国人の職員の対話

↓

お互いどうもありがとうがある

↓

フェリックス君 - ちかちゃん 先生に

↓

笑って話せる 笑顔 笑顔

↓

文化交流

宮城 / 世界

↓

ハイコトでできる

↓

個別で発表させる

Max

自己紹介の2分20秒

↓

お話を何となく聞かせる

① 「グローバル」「宮城(日本)」の2分20秒

↓

10分間の活動で 7分20秒 - 1分30秒

② 「どこまで」 本級

↓

難し / 易し / 加減 / 世界と関係

③ 世界の75人 日本か75人 日本か75人 → 日本か75人 日本か75人

↓

④ 買収、提携、合併の3つは 現実的か? 「宮城のグローバル」

↓

高橋先生によるノートです

さて、今回の勉強会はセミナー企画ノディスカッションだけでしたが、リアルな設定があったからか、とても議論が白熱し、充実した 2 時間でした。本当に単純なプログラムでしたが、皆さん真剣に議論をしていただき、ありがたく感じています。このレポートを執筆前にすでにセミナーは無事終わりましたが、皆さんに頂いた提案や課題のもと、有意義なセミナー研修となりました。ありがとうございました。

C 次回に向けて

次回は、今回テーマとなった 6 月 3 日の研修の報告とディスカッションを行います。また、前回の橋口先生のレビューをもとに、「グローバルとは何か」という議論を深めていければと思います。

D Review and Reflection

小山内先生

本勉強会では、関先生と渡辺先生、米倉先生が、実際にセミナーを実施されるとのことで、非常に熱の入った議論が各グループで繰り広げられました。

活動中、印象的だった点が2つあります。1点目は、グローバル社会を考える上で、生徒が育った環境によって効果的な切り口が異なる、という指摘です。例えば、外国籍の人と出会う機会が少ないのに、世界の実情や世界規模で取り組む課題、求められる資質と切り出されてもピンと来ない。生徒にとってより現実味のある事例(観光客の誘致、海外企業による買収など)を切り口にしてはどうか、というものでした。前任校ではグローバルキャリアのプログラムに携わってきましたが、確かに、帰国生が大半を占めるクラスと今回とでは状況が異なります。時間的制約や年齢、活動形態への慣れ、睡魔との戦い、また指摘にあったように、多文化共存を考える素地の有無などを考慮すると、同じアプローチでは限界があると感じました。またこのセミナーを、生徒が自分と世界との繋がりを意識し、将来を考えるきっかけとするためにも、まずは「彼ら」が自分事として興味を持てるような工夫を凝らす必要があると気付かされました。

2点目は、セミナーを通じて伝えたいメッセージは何か、という関先生の問いです。本来最初に設定すべき内容なのですが、切り口や活動内容に捕らわれてしまい、目指すべきゴールについて十分に話し合うことが出来ていませんでした。今回私達のグループでは「他国による自治体の買収」を切り口としましたが、教壇に立つ側がゴールを意識しないと、内容ばかりが先行し、グローバルキャリア＝「身を置く場所が国際化した際、それに対峙すること」と捉えられてしまいかねません。将来どのような形で国際化社会に身を置くにしても、重要なのは「異なるものを理解し、より良い社会を目指して、他と共存しながら新たな価値を創造する姿勢を育むこと」だと考えます。切り口のこだわりを活かすためにも、グループとして目指すべき方向性について、改めて話し合うことが出来ればと感じました。

生徒一人一人が、「世界」と「未来」と「自分」との繋がりをより深めていくことが出来るよう、これからも皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

末吉先生

私が今回の勉強会を通して改めて感じたのは、単に異文化のことを学ぼう、世界のことを知ろうといったようなコンテンツとしてグローバルではなく、価値体系や考え方としてのグローバルという視点を忘れてはいけないということです。例えば、今回対象として考えた宮城県の中二にとって、いくら国際化や民族多様性についてこちらが工夫し、面白く話しても、結局のところ本人たちにはピンと来ないかもしれません。そんなことよりも身近な話、例えば「近所のスーパーに外国の食材が増えたこと」について、それが良いことか悪いことかをクラスメイトと考え、話し合うだけでもいいと思います。その結果、相手の意見を知り、受け入れ、まずはほんのわずかでも自分の視野を広げることが彼らにとってのグローバルと向き合う第一歩なのかもしれません。

今年から英語教師として生徒と接する立場となった私にとって、グローバル教育なるものについて“グローバル”な視点、価値観を常にもって関わっていくことが大切だと気付かされた勉強会でした。